

寄贈図書リスト

大型望遠鏡「すばる」誕生物語
小平桂一, A5判, 173p, 1,200円, 金の星社
ケプラー・天空の旋律
吉田 武, A5判, 136p, 1,800円, 共立出版
星と生き物たちの宇宙
平林 久・黒谷明美, 新書判, 270p, 700円, 集英社新書
流れ星の文化史
渡部美和・長沢 工, 四六判, 141p, 1,600円, 成山堂書店

Observing the Caidwell Objects

David Ratledge, B5判, 245p, 4,950円, Springer-Verlag

宇宙環境利用のサイエンス

井口洋夫監修, A5判, 328P, 2,000円, 裳華房

The Wandering Astronomer

Patrick Moore, B5判, 208P, £19.95, Institute of Physics Publishing

レオロジーと地球科学

唐戸俊一郎, A5判, 251p, 3,800円, 東京大学出版会

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。
e-mailでgpjimu@tenmon.or.jp宛、なお、原稿も必ず0422-31-5487迄Faxでお送り下さい。

6. 博士号取得者
7. (1) 履歴書 (2) 業績リスト (3) 主要論文別刷5編 (4) 現在までの研究概要(2,000字以内) (5) 研究計画(2,000字以内) (6) 推薦書(健康に関する所見を含む) 1通
8. 2000年8月10日(木)必着
9. (1) 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 東京都立大学大学院理学研究科物理学専攻 主任 南方久和 (minakata@phys.metro-u.ac.jp) (2) 同専攻 大橋隆哉 電話 0426-77-2492 ohashi@phys.metro-u.ac.jp
10. 封筒に「宇宙実験助教授応募書類」と朱書きし、簡易書留で送付のこと。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。
1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問い合わせ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

東京都立大学大学院理学研究科物理学専攻助教授

神戸大学理学部地球惑星科学科教官

1. 助教授1名
2. 宇宙物理実験研究室
3. X線 γ 線天文学
4. 科学衛星を用いたX線 γ 線天文学の観測的研究, および新しい観測技術の実験開発
5. 2001年4月1日

1. 92巻10号
2. 相川祐理 (学振特別研究員PD/東大理)
3. 5月1日

研究助成

2000 年度朝日賞候補者の推薦について

朝日新聞文化財団より標記の依頼がきております。
朝日新聞社の推薦票は天文学会事務室にあります。

1. 候補者の対象：わが国のさまざまな分野で傑出した業績をあげ、文化・社会の向上に貢献された個人または団体。
 2. 送付先：(社) 日本天文学会事務室
 3. 締切：2000 年 8 月 10 日(木)必着
 4. 発表：2001 年元日の朝日新聞紙上。
- お問い合わせ：

〒 104-8011 中央区築地 5-3-2
朝日新聞社文化企画局文化メセナ部
「朝日賞」係
電話 03-5540-7453
FAX 03-3541-8999

第 8 回日産科学賞候補者推薦について

上記の推薦依頼が天文学会にきておりますのでお知らせ致します。

日産科学賞候補者推薦要領

1. 趣旨
若手・中堅の研究者で、特に顕著な業績にたいして表彰し、励ましと研究の発展を期待して支援をする。
2. 推薦基準
自然科学分野（人文・社会科学分野との複合領域を含む）で、下記により学術文化の向上発展に大きな貢献をした満 50 歳未満（平成 13 年 3 月末時点）の公的研究機関に所属する研究者とします。
a) 学術研究上重要な発見をした
b) 新しい研究分野を開拓した
※45 歳以下で上記基準に該当する方がおられる場合は、優先的にご配慮願います。
3. 推薦者：貴学協会の代表者
4. 推薦依頼数：1 名
5. 賞の内容：正賞……賞状、純金メダル
副賞……研究奨励金 500 万円（用途は自由ですが一時所得として後日申告が必要）
6. 賞の贈呈：平成 13 年 3 月

7. 推薦手続：所定の用紙に必要事項を記入し、天文学会に提出して下さい。（用紙は天文学会に用意してあります）

8. 学会締切：平成 12 年 7 月 28 日(金)

9. 問い合わせ：日本天文学会事務室

電話：0422-31-1359

参考：最近の受賞者は次の方です。

1999 年度「星形成過程の初期段階の観測的研究」
名古屋大学教授 福井康雄

日産学術研究助成募集要項

助成プログラムの要約

研究の種類別	総合研究	海外共同研究	奨励研究
研究の性格	学際的共同研究	学際的調査研究	独創的個人研究
対象分野	2 課題		4 課題
対象研究者	制限なし		中堅・若手研究者* (40 歳以下)
1 件当たりの助成金額 (採択予定件数)	～ 1000 万円 (8 件程度)	～ 500 万円 (5 件程度)	～ 200 万円 (30 件程度)
助成金の支払期間	・平成 13 年度を第 1 年次とする ・助成期間 2～3 年	・平成 13 年度を第 1 年次とする ・助成期間 2 年	・平成 13 年度を第 1 年次とする ・助成期間 1 年
募集方法	天文学会へ提出		推薦 (学会・協会、委員)

上記助成金の総額は約 1.6 億円

* 1960/4/2 以降生まれの研究者

1. 助成の対象分野

I. 総合研究および海外共同研究

◆ 研究課題

1. 「人間－自然環境系」に関する研究
2. 「人間－人工環境系」に関する研究

II. 奨励研究

◆ 研究課題

1. 人間特性に関する基礎研究
2. 地球表層環境に関する基礎研究
3. 新機能材料の創製、物性・新プロセスに関する基礎研究
4. 生命現象の理解に関する基礎研究

2. 申請者の資格等

日本の大学など非営利の学術研究機関に所属する常勤研究者（国籍不問）であること。

3. 申請方法

(1) 総合研究および海外共同研究

天文学会事務室に提出して下さい。

(2) 奨励研究

当財団が指定する学会・協会（別紙参照）の推薦を要しますので、各学会・協会に申請して下さい。ただし、各学会・協会には原則として申請のあった全件の推薦を依頼しております。

他の学術研究費、研究助成金などとの重複申請は極力避けて下さい。

4. 提出期限

直接公募および学会・協会推薦とも、平成12年7月28日(金)までに天文学会事務室必着のこと。

5. 資料請求・問い合わせ先

財団法人日産科学振興財団

〒104-0061 東京都中央区銀座 6-16-9

TEL: 03-3543-5597

FAX: 03-3543-5598

e-mail: at02-nsj@t3.rim.or.jp

URL <http://www.t3.rim.or.jp/~at02-nsj>

申込先：名古屋市科学館「公開セミナー」係

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番1号

内容についての問い合わせ先：

名古屋大学理学部U研「公開セミナー」係

TEL: 052-789-2917 (担当) 田原 譲

ホームページ：

<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/astro/astro.html>

「東京大学天文学教育研究センター木曾観測所及び名古屋大学太陽風観測所の特別公開」

日 時：2000年8月5日(土)

：展示と解説 10時～17時

天体観望会 19時半～21時

開催場所：〒397-0101 長野県木曾郡三岳村 10762-30

TEL: 0264-52-3360 FAX: 0264-52-3361

内 容：

東京大学木曾観測所及び名古屋大学太陽風観測所を一般の皆様へ公開いたします。普段見ることのできない望遠鏡の動きや、測定装置を見学できるほか、観測所の最新の研究成果が見られます。また、当日の夜には、大型シュミット望遠鏡と小望遠鏡を用いて天体観望会を開きます。

1) 木曾観測所及び太陽風観測所の公開と説明

2) 望遠鏡のデモンストレーション

3) 特別展示

4) 研究活動の紹介

5) 天体観望会（雨天中止）

6) ビデオの上映

7) 天体写真の展示及び販売

備考：

当施設への交通手段については、JR中央西線木曾福島駅あるいは上松駅より車で約30分です。観測所から6kmのところまでバスの便があります（1日数本）。清涼飲料の販売はいたしますが、食堂はありませんのでご注意下さい。

問い合わせ先：

木曾観測所：〒397-0101 長野県木曾郡三岳村 10762-30

TEL: 0264-52-3360

FAX: 0264-52-3361

<http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/kisohp>

太陽地球環境研究所：〒442-8507 豊川市穂の原 3-13

TEL: 0533-89-5175

FAX: 0533-85-3882

<http://www.stesun5.stelab.nagoya-u.ac.jp>

研究会・集案案内

第9回公開セミナー「天文学の最前線」要項

高校生以上の一般の方々を対象とした天文学の講演会で、今年で9回目を迎えます。最近ますます増えてきた質の高い天文観測データをもとに、最先端の天文学の研究成果を専門の先生方に分かりやすく解説していただきます。恒例の実験実習や講師の先生方の座談会もあります。

主 催：名古屋大学理学部・名古屋市科学館

開催日時：平成12年8月16日(水)、17日(木)、18日(金)（3日間継続）

会 場：名古屋市科学館サイエンスホール（8/16）

名古屋大学シンポジオン（8/17、18）

対 象：高校生以上

定 員：300名（申込制）

受講料：無料（ただし資料代は実費）

申込方法：「往復はがき」に住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入の上、下記まで申し込む。（多数の場合は抽選）

申込締切：7月14日(金)（消印有効）

「鹿島宇宙通信センター施設一般公開」

郵政省通信総合研究所鹿島宇宙通信センターでは、下記の一般公開を行います。詳細情報については後日、鹿島宇宙通信センターホームページで御案内します。

【日時】2000年7月29日(土)午前10時～午後4時

【場所】茨城県鹿嶋市平井 893-1

郵政省通信総合研究所 関東支所 鹿島宇宙通信センター

【最寄り交通機関】

1) 東京駅八重洲南口4番乗り場発「鹿島神宮」行きバス乗車「鹿島宇宙通信センター前」下車

(八重洲南口からの所要時間約2時間、料金1,780円)
「鹿島神宮」行きの中には「鹿島宇宙通信センター前」を通らないものがあるので、御乗車の際に御確認下さい。

2) JR 鹿島線鹿島神宮駅より関東鉄道バス「宇宙通信センター」(または「電波研」) 行き乗車、終点「宇宙通信センター」で下車

【内容】研究所展示室の公開、各研究室・研究チームの研究紹介等

【問い合わせ先】0299-82-1211

【参考ホームページ】<http://www.crl.go.jp/ka/index-j.html>

ふれあいサイエンス 2000

「電波望遠鏡や分光計を作って太陽電波を観測しよう」

参加者募集

電波望遠鏡というと大きなパラボラアンテナを思い起こす人は多いと思いますが、今回は自分の手でアンテナを作って見ましょう。そんなことができるかって？ それ意外と簡単にできるのです。このプログラムでは、金網を使用してパラボラアンテナを、キャンプで使うテントマットからフレネルアンテナを実際に作ります。それから太陽からの電波を観測する実験

をします(受かったら合格ですよ)。太陽電波はその太陽の黒点の大きさとおおきな関係があります。その黒点を望遠鏡で見てみましょう。また、インターネットでも太陽活動などの情報を集めます。次いで太陽の光のスペクトルの測定を行うために、皆さんも知っているコンパクトディスク(CD)を用いて分光計を作ってみましょう。太陽を見ると何が見えるかな。最終日は我々の地球をのぞいてみましょう。顕微鏡を使うと宝石に囲まれた地球が見えるよ。天気さえよければ、光の望遠鏡を使って月や星を見る観望会も開きます。以上、太陽、地球などを知ることで、宇宙のなかでこれからの地球がどうなってゆくのかみんな考えたいと思います。

日時:

平成12年8月7日(月)10:00～9日(水)16:00
(7日または8日の夜には観望会を予定しています)

場所:大阪府立大学 総合科学部 自然環境科学科
(大阪市営地下鉄御堂筋線 なかもず駅下車 徒歩15分)

実験内容:

- ・金網を使ったパラボラアンテナの工作
- ・テントマットを使ったフレネルアンテナの工作
- ・インターネットを用いた太陽活動などの調査
- ・コンパクトディスク(CD)を使った分光計の工作
- ・偏光顕微鏡を用いたいろいろな鉱物の観察

募集人数:中学生20名

応募締め切り:6月23日(金)必着

資料請求先および応募先:

〒102-8471 東京都千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル4階

日本学術振興会 研究事業部 研究事業課

ふれあいサイエンスプログラム担当

電話:03-3263-1721 (代表)

ホームページ: <http://www.jsps.go.jp/>

(ふれあいサイエンス2000)

問い合わせ先: 〒599-8531 大阪府堺市学園町1-1

大阪府立大学 総合科学部 自然環境科学科

小川英夫、米倉覚則

電話:0722-54-9726, 9727

電子メール: ogawa@el.cias.osakafu-u.ac.jp

yonekura@el.cias.osakafu-u.ac.jp

ホームページ:

<http://astrol.cias.osakafu-u.ac.jp/>

共催:大阪府立大学総合科学部、

日本学術振興会

日本天文学会 早川幸男基金への寄付のお知らせ (若手海外学術研究援助基金)

2000年4月26日に、(社)日本天文学会会員の佐藤明達氏より当基金へ400万円のご寄付を頂きました。

佐藤明達氏に御礼申し上げますと共に会員の皆様にお知らせ致します。

社団法人 日本天文学会

理事長 尾崎洋二

会務案内

内地留学奨学金の希望者を募集します

主として学校の教員、科学館・プラネタリウム・公共天文台等社会教育施設の学芸員等やアマチュア天文家の方々の研究・調査活動を支援するする制度として、内地留学奨学金があります。日本国内の大学や天文台等の研究機関を利用し、その研究者に指導を受けることができるまたとないチャンスです。振るってご応募ください。

なお、研究はしてみたいが、どこの誰に指導してもらおうのが良いかわからないという希望者は、内地留学奨学金選考委員長にお気軽にご相談ください。

過去の奨学金の対象となった研究テーマの例を掲げておきます。

- ・市街地における光害の実態と調査
- ・天文教材開発のための調査研究
- ・19世紀の流星雨に関する文献の調査研究
- ・彗星の分光観測

募集要項は以下の通りです。

応募用紙：日本天文学会事務室にあります（学会事務室に電話くだされば郵送します）。申請書の書き方の例もありますから請求ください。

応募資格：日本天文学会会員であること。

留学期間：2001年1月から約1年の希望期間。希望者と受入研究機関、教官と相談の上、夏休み時期に集中させたり、週に1回程度を何回か繰り返す等の方法が考えられます。

申し込み：応募申請書に必要事項を記入し、受け入れ教官の印をもらった上、「〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会理事長」宛に郵送してください。

応募締切：2000年9月23日(土)必着

審査：内地留学選考委員会（内規第5条）で審査の上決定し、10月下旬本人に通知します。

支給額：25万円以下で、支給予定は2001年1月とします。

ご相談や問い合わせは：

兵庫県立西はりま天文台

内地留学奨学金選考委員長 黒田武彦

電話：0790-82-3886 FAX：0790-82-3514

電子メール：kuroda@nhao.go.jp

第18期日本学術会議天文学研究連絡委員会・委員候補者の選挙

上記選挙を以下の予定で実施いたします。

5月15日(月)：有権者名簿締切

6月30日(金)：正会員へ有権者名簿と投票用紙を郵送

7月2日(月)～7月31日(月)：投票期間

8月1日(火)：開票

投票方法は従来通り、日本天文学会正会員（有権者）による20名以内無記名連記の郵送投票で行います。

庶務理事 大石雅寿

天文研連委員の改選にあたって

天文学研究連絡委員会委員長 池内 了

日本学術会議は、3年ごとに会員の改選が行われており、本年はその改選年にあたっており、7月22日より第18期が始まります。これに対応して、日本学術会議第4部（理学）に所属する天文学研究連絡委員会（以下、略して天文研連と呼ぶ）の委員の改選も行われます。

天文研連委員の選出母体は日本天文学会のみであり、これまで、日本天文学会の会員の直接選挙で委員候補者を選出し、分野や地域の偏りがないよう天文研連と天文学会の代表者が調整して委員を決定する、という手順をとってきました。今回も従来と同じ手順で委員の改選を進めたいと考えており、天文学会の会員の皆さんが研連委員候補者選挙に積極的に参加して下さいようお願いいたします。委員改選にあたって、日本学術会議と天文研連の活動内容について報告しておきたいと思います。

1. 日本学術会議

日本学術会議は、戦前、科学者が戦争へ動員された反省に立って、「科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学会と提携して学術の進歩に寄与することを使命とし、ここに設立される」という宣言の下に、1948年に日本学術会議法の成立とともに設立されました。特筆されることは、日本学術会議は総理府に直属し、「科学の振興および技術の発達に関する方策」などについて政府に勧告することができる（同法第5条）と規定されていることで、これによってさまざまな共同利用機関が設立され、原子力3原則が原子力基本法に活かされることになり

ました。

しかし、日本学術会議の政府批判が忌避されるようになり、それまで有権者の直接選挙で会員が選出されていたのが、1982年から始まる第13期から学協会からの推薦制となるとともに、勧告が無視されることが多くなってしまいました。しかし、学術の全分野の研究者の代表によって構成され、日本の科学・技術の施策について議論し、また対外的に日本を代表する唯一の公的機関であることは変わっていません。

日本学術会議のもう1つの重要な役割は、「学術に関する国際団体に加入することができる」（同法第6条）という役割で、国際アカデミー・パネル（IAP）、国際学術連合会議（ICSU）、アジア学術会議（SCA）の重要なメンバーであります。また、個別分野でも日本学術会議を通じて国際学術団体に加盟しており、天文学は国際天文学連合（IAU）に加盟しています。天文研連は、その国内委員会（National Committee for Astronomy）を兼ねており、1997年のIAU総会を京都で開催する責任母体となりました。

現在、行政改革が進んでいて2001年1月から省庁再編が予定されていますが、日本学術会議は総務省に移されることが決まっています。しかし、組織の中身や役割・権限などについては一切決められていず、日本学術会議としては、「自己改革案」を総会決議して、国を代表する学術機関として存続するよう働きかけをしてゆく予定です。

2. 天文学研究連絡委員会

学術会議には、研究領域別および課題別で組織された210の研究連絡委員会および専門委員会が設置されています。天文学と直接関係があるのは、研究領域別研連である天文研連および天文学国際共同観測専門委員会であり、関連する研連として、物理学研連、宇宙空間研連、電波科学研連およびそれらの専門委員会があります。

天文研連の役割は、大きく分けて2つで

- (1) 日本の天文学の将来計画の検討・大学や共同利用機関の研究条件の整備（科研費審査委員の推薦を含む）などについて審議し、必要があれば勧告・要望・対外報告などによって外部に発信すること
- (2) IAUの国内委員会として、3年ごとに開かれる総会に対応して、新会員の推薦・若い天文学者のための旅費援助・会員以外の者が総会やシンポジウムに出席するための招待状の発行などを行うことです。

最近の対外報告としては、1994年6月に「21世紀に向けた天文学長期計画について」を出し、1998年10月に「天文学関連分野における国際共同観測事業等の支援体制の整備について」を天文学国際共同観測

専門委員会と連名で出しました。

また、「LMSA計画について」のシンポジウムを3回（1998年3月、1998年11月、2000年1月）開催し、将来計画についての討論を組織しました。また、1997年のIAU第23回総会は、日本学術会議と天文研連の共同主催によるもので、2000人を超える参加者があって大成功でした。

3. 天文研連委員候補者の選挙について

日本学術会議は、第13期（1982 - 1985）に組織改革を行い、通算3期（9年）を超えて研連委員として存在できない、という規定となりました。ただし、(1) 研連委員であった後に日本学術会議の会員となったものが、会長の指名を受けて再び研連委員となった（指名委員）の場合(2) 日本学術会議が参加している国際学術団体の役員である場合(3) 研連の設置または活動に重要な役割を果たした者等、その者を欠くことにより当該研連の活動に重大な支障を生じるおそれがある場合、その他特別な事由がある場合には、例外として制限が外されることになっています。

天文研連の委員定数は21名ですが、(1)の規定によって学術会議会員は指名委員となるので、残り20名を新たに選出する必要があります。また、(2)の規定に該当するのは、IAUのコミッション・プレジデント以上のIAU役員で、今年8月のマンチェスターにおける第24回総会で該当するIAU役員に選出された人は、自動的に研連委員になっていただくこととなります。さらに、(3)の規定に合致する者として天文学会から強い推薦があれば、委員決定の調整の際に検討することになります。

今回の研連委員候補者の選出にあたって、特に強調したいことは、女性研究者を積極的に推薦していただきたい、ということです。天文学分野では、長らく女性研究者が少なかったのですが、近年になって女性の割合が急増しており、昨年行った天文学の人口調査でも全体で9.4%になっています。第17期（1997 - 2000）の研連では女性委員が1名選出されましたが、次期には女性委員が倍増以上となることを期待しています。

訂正とお詫び

天文月報第93巻5号裏表紙内側に掲載してある天文学会取扱書籍一覧のうちのCD-ROM「遙かなる宇宙へ」価格は正しくは2,000円です。お詫びして訂正致します。

(社)日本天文学会へ、2000年1月23日から2000年4月3日までの間に入会された方、退会された方をお知らせします。

*新入正会員

野中英光 博多大丸(株)
 原田知広 早大・理工
 新井 宏二 国立天文台 宇宙計量部門
 片山雅義 放送大学(在学)

*新入準会員

平間幸雄 千葉県水質保全研究所
 脇坂英司 履正社学園豊中中学校
 秋山 務 岡山市役所岡南環境センター
 河内明子 東大・宇宙線研究所
 藤原英明 筑波大学付属駒場高校(在学)
 板倉礼奈 明星大(在学)
 江口昌利 東大・理・天文学教室(在学)
 西川 史一 (株)東芝日野デジタルメディア工場企画部
 堀 晴雄 池上通信機株式会社
 大友 勲
 広田 一郎 天体観測研究会主宰
 神山 敬三

*新入団体会員

群馬県立ぐんま天文台

*新入賛助会員

(有)木村商店
 (株)講談社マルチメディア事務局

*移籍会員[正~準]

征矢野隆夫
 樽沢賢一
 野村敏郎
 内田俊郎
 金子朋史
 坪井陽子
 郡 和範
 山中直人

*移籍会員[準~正]

中島 紀
 樽家篤史
 吉井 讓

*退会正会員

椿都生夫
 浜田浩行
 Jong June Hyun
 E. Scalise Jr.
 日高由布子
 清水忠良
 信田浩司
 Saabine D. Philipp
 野澤哲生
 芳野越夫
 盧 徳圭
 後藤 讓
 中村崇宏
 宮崎淳一
 中島浩二
 宮崎利行
 辛 準鎬
 伊藤澄子
 堀内孝彦
 大根田泰弘
 岸本信宏
 徳久 章
 森川浩司
 都竹 奏
 片山和典
 仁尾友美
 池田泰文
 大西呂尚
 Adel Tawfik Roman
 *退会団体会員
 東京都立戸山高校
 天文気象部

*退会準会員

池上雅弘
 上田栖矣次
 福原睦子
 加藤伸洋
 掃部条二
 北爪 均
 五味一明
 角野俊雄
 遠山祐幸
 野村和泉
 藤由嘉昭
 正木孝志
 山岸康夫
 山口七郎
 山田浩嗣
 横田郁宏
 若月征士朗
 千島美智男
 安部裕史
 中原卓治
 兼武令子
 早田次郎
 野本 進
 井口 亮
 小池和彦
 松田義章
 富永 智
 大山雄一
 服部秀男
 守屋 卓
 菅谷弘行
 中川人司
 大魚信頼
 尾関峯夫
 根本 茂
 加藤淳子
 安本 卓

●お知らせ●

6月より学会のメールとホームページのアドレスが変わりました。

e-mail: jimmu@asj.or.jp (事務室) e-mail: gpjimu@asj.or.jp (月報)
 e-mail: office@pasj.asj.or.jp (欧文編集) e-mail: nkntp@asj.or.jp (年会)

http://www.asj.or.jp/

編集委員 上野宗孝(編集長), 伊藤孝士, 大橋正健, 小野智子, 斎藤芳隆, 田村元秀, 土橋一仁, 内藤統也, 和田桂一
 平成12年6月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷
 定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 TEL: 0422-31-1359 (事務室) / 0422-31-5488 (月報・欧文編集) FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のウェブサイト http://www.asj.or.jp/ 月報編集 e-mail: gpjimu@asj.or.jp